

2013年12月7日

日本原子力研究開発機構 様

要 請 文

今日、私たちは「もんじゅを廃炉へ！」の強い思いを持って、全国各地から集まりました。開発から半世紀、1兆円という莫大な国費を投じてきた高速増殖炉「もんじゅ」は、一体、国民に何をもたらしたのでしょうか。プルトニウム増殖どころか実用化の夢さえ幻と消え、あるのは巨大地震などによる大事故の現実です。

1995年12月、ナトリウム火災事故を起こして停止、2010年に3トンもの炉内中継装置を落下させて再び停止し、2012年、1万3千件もの機器の点検漏れが発覚、原子力規制委員会も「こんな組織にまかせられない」とあきれ、「もんじゅ」の運転再開準備の停止を命じました。

しかし文科省は8月8日、組織と名称を変えて「もんじゅ」の研究開発を継続すると発表しました。

18年間、事故続きでもまともに動いていない炉を再び動かすことは世界に例がなく、言語道断、正気の沙汰ではありません。六ヶ所再処理工場の先行きも見えず、ましてや第二再処理工場も頓挫し、さらにプルサーマル計画も破綻する中で、核燃料サイクル政策そのものを推進すること自体が不可能になり、もんじゅを進める大義名分のかけらもありません。

原発はひとたび大事故を起こすとどうなるか、今、私たちはフクシマで目の当たりにしています。安倍総理の発言とは裏腹に、汚染水は「毎日600億ベクレル」が外洋に放出されていると9月19日報道され、いままも流出は続いています。もはや制御不能ではないかと絶望的になります。

まして「もんじゅ」には1400キログラムのプルトニウムと1700トンのナトリウムがあり、止まっても安心できません。一刻も早く「もんじゅ」の廃炉を決断し、高速増殖炉開発計画から撤退することを強く求めます。

「もんじゅを廃炉へ！全国集会」参加者一同